

平成25年度 補助事業評価 (事後評価)

## 中山間地域総合整備事業

とよおか  
豊丘地区

【基礎資料】

平成26年 2 月

農村振興局農村政策部中山間地域振興課

## 中山間地域総合整備事業 豊丘地区

### 【事業の概要】

関係市町村：北海勇払郡道厚真町

事業目的：本地区は、北海道南部の中山間地域に位置しており、水稻を中心に水田の畑利用による小麦、大豆を組み合わせた営農が展開されている。

しかしながら、農業生産基盤整備の遅れから営農に支障が生じ、農業経営の安定化や土地の流動化が阻害されている状況にあった。

このため、本事業により農業生産基盤の整備を行い、農業生産性の向上と農作業の省力化を図るとともに、併せて地域の活性化に資するものである。

受益面積：101ha（生産基盤）

受益者数：22人（生産基盤）

主要工事：区画整理 90.8ha、暗渠排水 10.2ha

総事業費：1,183百万円（事業完了時点）

工期：平成15年度～平成19年度

関連事業：国営農業用水再編対策事業・勇払東部地区

### 【事業実施前】



### 【事業実施後】





【事業実施前】



【事業実施後】



事業実施後は、ほ場が大区画化され農作業が効率化し、整備された用水路、排水路及び農道は、厚真町土地改良区や農業者及び地域住民により適切に管理されている。

【事業実施前】

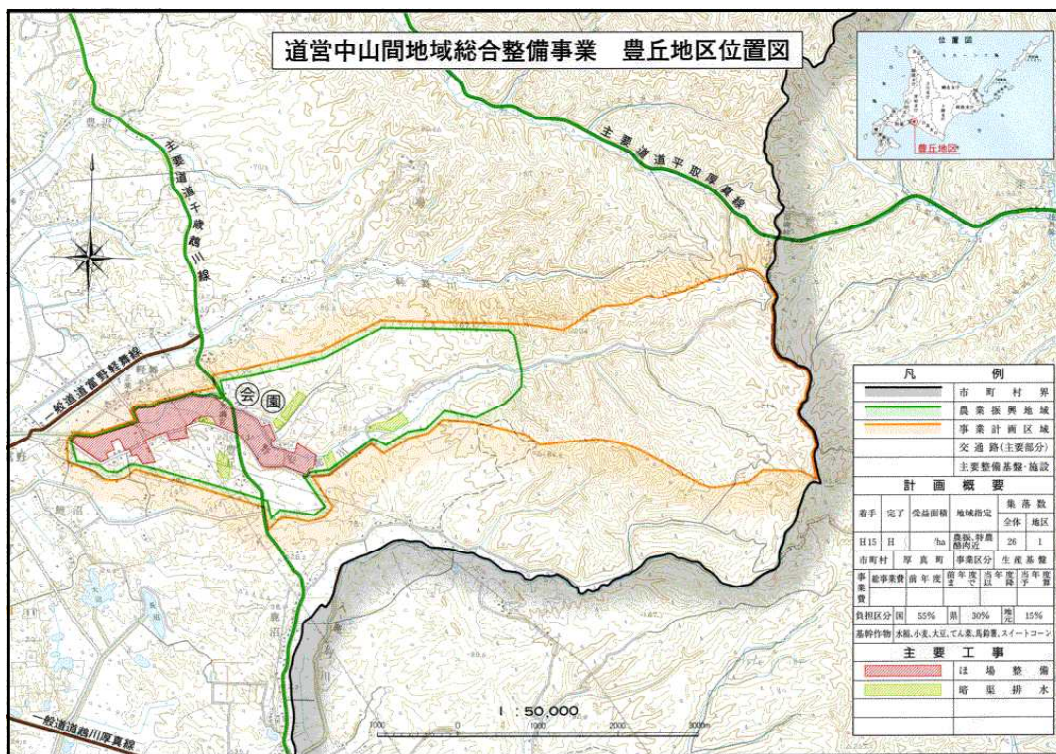


【事業実施後】



事業実施後は、排水不良が改善し単収が増加した。

【位置図】



## 1 社会経済情勢の変化

### (1) 社会情勢の変化

本地域の総人口について、平成12年と平成22年を比較すると10.1%減少し、北海道全体の減少率3.1%より大きくなっている。産業別就業人口については、第1次産業の割合が平成12年の43%から平成22年の39%に低下しているが、北海道全体の8%に比べて高い割合となっており、本地域においては第1次産業が基幹産業となっている。

#### 【人口、世帯数】

区分	平成12年	平成22年	増減率
総人口	5,438人	4,890人	△10.1%
総世帯数	1,980戸	1,972戸	△0.4%

(出典：国勢調査)

#### 【産業別就業人口】

区分	平成12年		平成22年	
	人数	割合	人数	割合
第1次産業	1,331人	43%	1,045人	39%
第2次産業	456人	15%	348人	13%
第3次産業	1,310人	42%	1,307人	48%

(出典：国勢調査)

### (2) 地域農業の動向

平成12年と平成22年を比較すると、耕地面積については1.4%減少、農家戸数は32.6%減少、農業就業人口は32.9%減少しているものの、65歳以上の農業就業人口は9.9%の減少に止まっている。

なお、農家1戸当たりの経営面積は62.5%増、認定農業者数は7倍増と大幅に増加している。

区分	平成12年	平成22年	増減率
耕地面積	5,840ha	5,760ha	△1.4%
農家戸数	608戸	410戸	△32.6%
農業就業人口	1,243人	834人	△32.9%
うち65歳以上	454人	409人	△9.9%
経営面積	8ha/戸	13ha/戸	62.5%
認定農業者数	28人	230人	721.4%

(出典：農林水産統計年報、農林業センサス、認定農業者数は北海道調べ)

## 2 事業により整備された施設の管理状況

事業により整備した用水路、排水路及び農道は、厚真町土地改良区や農業者及び地域住民によって適切に維持管理されている。

### 3 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

#### (1) 農作物の生産量の変化

水稲については、水田の大区画化等により農作業の効率化が図られたことから、計画を上回る作付けとなっている。また、飼料作物については、近年、自給粗飼料生産の振興が図られたことから、計画を上回る作付けとなっており、これらに伴い、小豆、ばれいしょ、てんさいが計画を下回る作付けとなっている。

#### 【作付面積】

(単位：ha)

区分	事業計画（平成19年）		評価時点 （平成24年）
	現況	計画	
水稲	53	66	69
小麦	5	4	5
大豆	12	7	7
小豆	3	4	1
ばれいしょ	2	12	0
てんさい	2	3	2
牧草	23	0	10

(出典：事業計画書、厚真町間取り)

#### 【生産量】

(単位：t)

区分	事業計画（平成19年）		評価時点 （平成24年）
	現況	計画	
水稲	247	347	355
小麦	17	15	19
大豆	27	19	18
小豆	6	9	3
ばれいしょ	60	455	0
てんさい	109	187	159
牧草	995	0	547

(出典：事業計画書、厚真町間取り)

#### 【生産額】

(単位：百万円)

区分	事業計画（平成19年）		評価時点 （平成24年）
	現況	計画	
水稲	49	69	70
小麦	3	2	3
大豆	7	5	5
小豆	2	3	1
ばれいしょ	5	36	0
てんさい	2	3	3
牧草	28	0	15

(出典：事業計画書、厚真町間取り)

(2) 営農経費の節減

本事業及び関連事業の実施によるほ場の大区画化、排水改良及び農業用水の安定供給に伴う農業機械作業の効率化等農作業に係る労働時間及び機械稼働経費の節減が図られている。

【労働時間】

(単位：hr/ha)

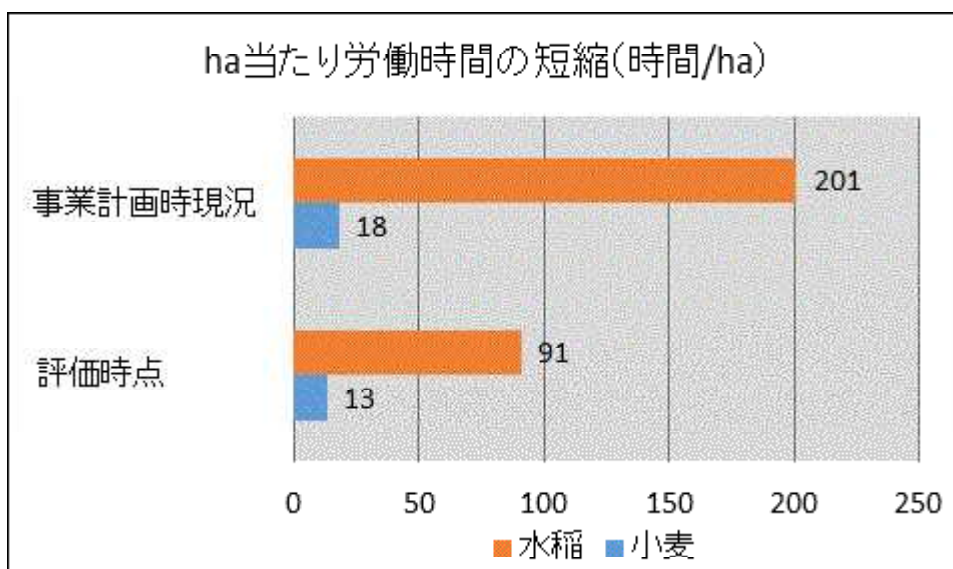
区分	事業計画 (平成19年)		評価時点 (平成24年)
	現況	計画	
水稻	201	109	91
小麦	18	14	13
豆類	56	51	48
てんさい	121	109	107
牧草	17	15	14

【機械経費】

(単位：千円/ha)

区分	事業計画 (平成19年)		評価時点 (平成24年)
	現況	計画	
水稻	1,343	423	391
小麦	145	105	105
豆類	99	76	62
てんさい	245	167	160
牧草	122	105	105

(出典：事業計画書、厚真町間取り)





#### 4 事業効果の発現状況

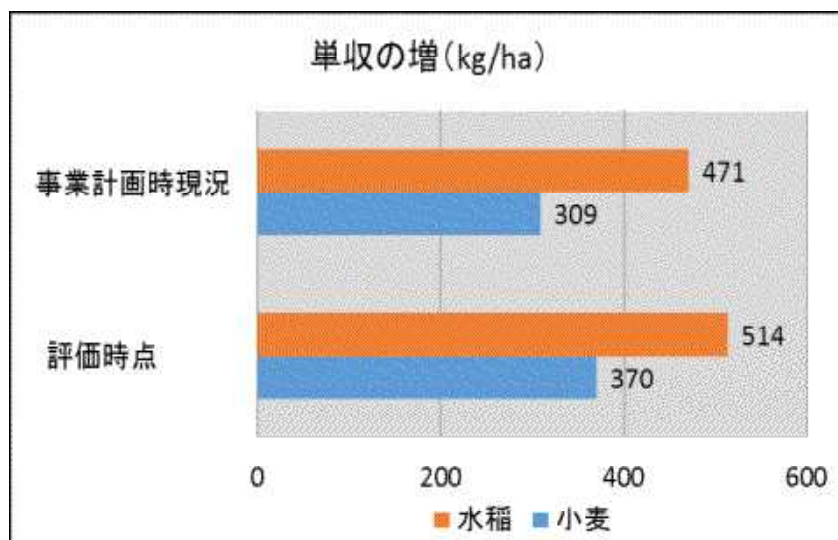
##### (1) 事業の目的に関する事項

##### ① 農業生産性の向上

本事業の実施及び関連事業の実施により、安定的な農業用水が確保されたことや、排水性が改善されたことから単収が増加し、生産性の向上が図られている。

区分	【単収】 (単位 : kg/10a)	
	事業計画時現況 (平成19年)	評価時点 (平成24年)
水稻	471	514
小麦	309	370
大豆	221	265
小豆	189	227
てんさい	5,735	6,829
飼料作物	4,250	5,313

(出典 : 事業計画書、厚真町聞き取り)



## ② 農村地域の活性化

農業生産基盤の整備により農作業の省力化が図られ、これまでのJAを通じた農産物出荷のほか、市街地で農産物を販売する軽トラ市への参加を積極的に行うことにより都市と農村の交流が図られるなど、地域の活性化に寄与している。

### (2) 土地改良長期計画における施策と目指す成果の確認

#### ① 農地の汎用化等による農業の体質強化

本事業の実施により農作業の省力化が図られたことから、地区内における農地の流動化が加速した。(101ha/22戸→101ha/12戸)

(出典：厚真町聞き取り)

#### ② 農地・水等の生産資源の有効利用による食料供給力の確保

厚真町の耕作放棄地は、農業委員会による農地パトロールと連携してその発生を防止するとともに農地の流動化を促進した結果、減少傾向にある。また、本地区では農業生産基盤整備により区画整理などが実施された結果、新たな耕作放棄地は発生していない。

(単位：ha)

区分	平成12年	平成22年
耕作放棄面積	29	11

(出典：農林業センサス)

### (3) 事業による波及的効果

本事業の実施による農業生産基盤整備を機に農地の賃貸契約が進み、5戸の農業者による共同耕作者「みらいファーム」へ農地の利用集積が加速した。

(出典：厚真町聞き取り)

### (4) 事後評価時点における費用対効果分析の結果

妥当投資額 (B) 3,725百万円

総事業費 (C) 2,439百万円

投資効率 (B/C) 1.52

(注) 投資効率方式により算定。

## 5 事業実施による環境の変化

### (1) 生活環境

本事業は生産基盤整備を対象とするものであり、生活環境への変化はみられない。

### (2) 自然環境

排水路整備において、生物の生息生育に配慮し籠マット工法を採用した。現在では、事業実施前にみられたトビケラやヨシなど水生昆虫や植物の生息・繁茂が確認されている。



## 6 今後の課題等

本地区においては、農業者の高齢化や後継者不足により離農者の増加と生産現場での労働力不足が予想されるため、農業後継者や新規就農者を対象とした支援制度を充実・強化する取り組みを進めることにより、担い手の育成・確保を図っていく必要がある。

また、この取り組みと併せ、離農跡地の遊休化を防止するため、農地の出し手農家と規模拡大志向農家の情報収集機能の充実、情報提供体制を整備していく必要がある。